

あんのんえんこう

宰相山 角屋

圓光寺だより

新年を迎えて

今年、「偏らない暮らしを心がける」を考えてみたいと思います。物事の考え方、食べ物についてもバランスよく均整の取れた思考を身につけること、仏教でいう中道です。

欲に負け欲にふける粗末な心の生活、またいたずらに自分の心身を責め、さいなむ苦しい心の生活、二つの偏った生活を離れて心の眼を開き本当の智慧に目覚めるくらし、難行ではありませんが「心がける」ことから知らず知らず身についてくると思います。

心の中の苦も楽に、暗い心が明るい心に変えることもできると思います。今年もお互いに心身ともに健康な日暮でありますように念じ申し上げます。

元旦の朝のことを「三朝」とも言います。年の初め、月初め、一日の初めと朝が三つ重なるのです。朝といえばお仏壇の前に座ってお念仏、合唱、礼拝の三つから始まるのが「浄土真宗の朝」だといえます。

千五四三・〇〇一三 大阪府大阪市天王寺区玉造本町一三・五
電話番号、FAX 〇六・六七六一・八二九三

令和 七年 一月号
寺報 あんのんえんこう
発行 圓光寺ごほう志会
執筆 足利 和枝、正往

No. 102



これからの寺の在り方

これまでのお寺は、墓地の収入、お賽銭、お守り、祈祷、お檀家さんからの寄進の収益で成り立っていました。今の時代、単身世帯が増えて地域のつながりが少なくなってきました。そして浄土真宗はお守り、祈祷などはありません。圓光寺は代々墓地はなかったお寺でした。

戦後玉造に移転してから先々代住職坊守が檀家の寄付では運営していけない時代だと読んで、今の建物を立てたらしいです。そのあと先代があまり寺の経営についてはちゃんとや

ってこずに至ります。今の時代は寺も会社みたいなもので、寺族が法律や、経営をしつかり理解して社長のような能力を求められる時代です。

昔ながらの瓦屋根のお寺、一般の方がイメージするお寺は、京都の観光寺など有名寺でないとこれから維持管理できない。だんだん減ってくると思われれます。若い方は考え方もそれまでの方と違い、こだわりも少ない。団塊の世代の方がなくなるとそのようなようになっていくように思われます。寺らしく見栄えが良くても収支が安定してない寺より、近代的なお寺でも収支が安定しているお寺のほうが、僧侶が仏教の布教に集中できます。

圓光寺とは規模が違いますが、大阪市中心街でマンション、ホテル一体型のお寺があります。大阪中心の御堂筋沿いにあるホテル、商業施設一体の三津寺。同じ御堂筋沿い難波別院は山門と一体のホテル商業施設ビルを建築。全国主要都市にはそういうお寺神社があるようです。ホテル以外にも新しいお寺の形が増えてきます。寺の人間も社会の変化にあわせて変わっていかないといけない時代。何を

にも業者にお任せでなくある程度法律、専門知識をつけるため、僧侶修行以外の勉強も必要です。

三津寺

難波別院山門



圓光寺は境内に庫裡（寺族の住むところ）を立て、本堂と寺族の生活空間を分けることを考えていました。しかし昨今の物価上昇で設計の見直しが続きました。その中で光熱費など支出が増える建物をギリギリの予算いっぱい建てておくべきか、将来像をもっと煮詰めて考えるべきだと思いました。テレビコマースで有名な納骨堂も調達資金を返済できずに今年破産したり、資金返済できず法人格を売る宗教団体、できる器の中で宗教法人として「こういうことなら宗教法人の営利活動だ」と思われるような活動はないか考えています。

寺の人間だけでは、社会経験も乏しくいろいろ

ろな考え方、寺の在り方を教えていただきたいと思います。一般社会で働いてる方から見たアイデア、こうしてほしいことはほとんど提案していただきたいです。よろしくお願ひします。

〈令和七年 年回表〉

一周忌	亡令和六年
三回忌	亡令和五年
七回忌	亡平成三十一年、令和元年
十三回忌	亡平成二十五年
十七回忌	亡平成二十一年
二十三回忌	亡平成十五年
二十五回忌	亡平成十三年
二十七回忌	亡平成十一年
三十三回忌	亡平成五年
三十七回忌	亡昭和六十四年、平成元年
五十回忌	亡昭和五十一年

写経会の様子



第四土曜日写経会にご参加お待ちしております。

〈年間予定〉

一月 元旦	元旦会
法要	晨朝 正信偈、和讃六首引 日中 無量寿経作法
三月 二十一日	春季彼岸会
法要	日中 無量寿経作法
四月 八日～三十日まで	灌仏会（花まつり）お釈迦様の誕生を祝う
八月 十三日	孟蘭盆会
法要	日中 観無量寿経作法
九月 二十三日	秋季彼岸会（永代経法要）
法要	日中 阿弥陀経作法
十二月 二十七日	写経納経会
法要	日中 正信偈、和讃六首引

※各家の過去帳を持参の上、合同永代経法要を行います。

〈圓光寺納骨堂〉

一 納骨堂のおつとめは、寺族だけで週一回あげております。
二 お申し出次第により永代経のおつとめも行います。
三 永代納骨の希望は住職にお尋ねください。